

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273300317		
法人名	株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	四街道ケアセンターそよ風		
所在地	千葉県四街道市物井1596-4		
自己評価作成日	令和2年2月4日	評価結果市町村受理日	令和2年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年5月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちは、世界一のしあわせ創造企業を目指します。」の理念のもと、グループホームでは「安全に楽しく家庭的」にをモットーに、ご入居者様とスタッフが生活機能訓練として一緒に食事作りや洗濯掃除等楽しく日々を過ごして居おります。ご入居者様一人一人の気持ちに寄り添い、楽しみや夢を持ち夢を叶える、自己実現を目指しています。ご入居者様、ご家族様の笑顔を活かすために、スタッフ一同プロの介護士として意識を高め、そよ風に関わる全ての人の幸せを感じる温もりのあるグループホームです。ご入居者様の情報共有やケアへの要望を取り入れ、日常生活での体操や外出の機会を設け健康維持に努めています。ご家族様の協力を得ながら一体となり、ご入居者様とご家族様のが日々安心して穏やかに過ごして頂けるよう、より良い環境作りを努めています。訪問診療に加え、訪問看護を導入したことで、医療面でのサービスを拡充し、安心できる生活環境を整え、看取り介護の事例実績もあり長期的支援としても安心できるというご家族評価を受けています。自然にあふれ、季節ごとの花や動物に出会うことができます。近隣には小学校や幼稚園があり、子供たちとの交流の機会があり音楽療法や地域ボランティア等様々なイベントが楽しめます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「安全で楽しく家庭的」とのホームの理念を掲げ、利用者の支援に取り組んでいる。特に、ヒヤリハットを数多く収集して、利用者の事故防止に努めるなど安全を重視している。健康管理にも力を入れており、月2回の訪問診療や週1回の訪問看護による支援をおこなっている。24時間のオンコール体制もあり、緊急時の対応もできるため、利用者・家族及び職員の安心につながっている。研修体制を整備し、ホーム内研修は年間でテーマを決めて毎月実施している。地域との関係も大切にしており、自治会の防災訓練などに参加するほか、災害の際は発電機を借りるなどの協力体制ができています。家族アンケートでも総合的な満足度が高いホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「世界一のしあわせ創造企業を目指します」を掲げており、事業所として「安全で楽しく家庭的」を職員一同意識しながら取り組んでおります。	ホームの理念である「安全で楽しく家庭的」を事務所に掲げ、利用者の支援に取り組んでいる。特に安全には力を入れており、その日のヒヤリハットは申し送りして振り返るなど、職員が共有しながら安全なケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(お祭り等)やお花見、近所への買物をご入居様と行き、少しでも地域住民との関わりを持っております。また職員代表が地域総会に参加しております。	自治会に加入して総会にも出席している。また、利用者の状況に応じて地域の祭りに参加したり、買い物に出かけるなどしている。ボランティアや近くの小学生が併設のデイサービスに来訪した際は、利用者も一緒に参加するなど地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	教育機関から依頼がある際には、実習生の受け入れを行っております。地域に向けて認知症サポーター養成講座を開催致しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者様やサービス等の取り組み状況を報告し、意見交換や質疑応答を行い、今後のサービスに反映できるようにしております。	利用者、利用者家族、市の担当職員、民生委員、自治会員などの参加で3か月に1回開催している。ホームの運営や事故・ヒヤリハットなど多様な内容を話し合い、意見交換をおこなっている。会議は職員にも参加を促し、サービスの向上につながるようしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に4回の運営推進会議に市職員・民生委員・自治会に参加を依頼し、意見交換を行っております。また四街道市内のGH職員が集まって意見交換等を行っております。市と協力して認知症相談窓口を開始予定しております。	市の担当職員とは災害や感染症時の対応などについて相談している。地域包括支援センターが地域でおこなっている街角相談所の窓口にはケアマネジャーも出向くなど協力関係を築いたり、市のグループホーム協議会に参加して意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しております。施設全体で研修を行い、情報共有を図り理解を深めております。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、指針を整備するとともに委員会を設置し、毎月会議を開催し、内容は全体会議で共有を図っている。身体拘束適正化に関する勉強会は年2回実施している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月委員会を開催し、施設全体で研修を行い、日々虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用される入居者様も増えており、職員全体で制度について理解を深められるように研修を開催しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書の説明を行ってから同意を得ております。またご本人様やご家族様からの質問や疑問にも一つ一つ納得頂けるまで説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時にご質問やご意見を頂いたり、運営推進会議でご意見や疑問を吸い上げております。頂いたご意見は改善点として運営に反映させております。契約時にも苦情・相談窓口の一つとして、行政機関の連絡先も記載し、ご家族様にお伝えしております。	家族の訪問時に要望や意見を聞いたり、運営推進会議ではホームの報告に対し質問や意見をもらい、運営やサービスに反映させている。なお、外部にも相談できることは、改めて運営推進会議などで家族に伝えることもよいと思われる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員とのコミュニケーションを大事にし、必要時には個人面談等個々の意見が反映できるよう取り組んでおります。	全体会議やユニット会議が毎月開催されており、運営や業務について意見を聞いて話し合っている。個人面談もおこなって、職員の意向を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にごとの話し合いや面談等を実施し、スタッフ個々の悩み・意見を聞いております。お互いに働きやすい環境が作れるように日々努力しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には研修期間中、管理者や先輩職員が個別指導に当たっております。研修を開催し職員一人一人のスキルアップを図っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	四街道市内のGH職員が集まり意見交換を行い、そこで得た情報を持ち帰り現場職員に伝え共有しております。合同で合唱コンクールを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成や職員、ご家族様との情報交換、施設見学・実調を行い、ご本人様とよく話して聞き取りを実施しております。また普段の生活リズムを把握し安心した関係・環境づくりを務めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様やご家族様の困っていることなどに耳を傾け、ご本人様らしい生活を提供できるように協力体制や信頼関係作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時や待機申し込みの際に、ご本人様の状態を把握し、ご本人様にあった生活ができるようなアドバイスを行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中でご本人様が望む生活を行うためにもコミュニケーションを通じ、ご本人様と交流を持ち信頼関係を築いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話等、ご本人様の状態を伝えることでご家族様に把握して頂くことが出来ます。行事等のイベントのお知らせや家族会に参加して頂くことで、ご家族様とご本人様との絆を深められる環境作りを信頼関係を築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・親戚が来所された際、ゆっくりと過ごせるような環境作りを行っております。また外出の制限はないので好きな日にご家族様とお出かけすることも可能です。今年度は年始年末にご自宅に戻れる入居者様がありました。	知人・友人と一緒にカラオケに行ったり、家族とお墓参りや買い物、外食などに出かける人もいます。年賀状を出す利用者もおり、あて名書きを手伝うなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が上手くコミュニケーションが出来るように職員が間に入り、楽しみながら生活が出来るように支援しております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、近隣のイベントや家族会にお招きし交流を図り、相談等を受け入れる環境を作っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのコミュニケーションを大切にし、一人一人を観察や傾聴しております。なるべくご本人様の意向に添った介護を行っております。意思疎通が困難な方には以前の生活歴やご家族様に相談し情報収集しております。	意思疎通が可能な利用者は日常のケアの中で意向を聞いている。難しい場合は、生活歴や家族から聞き取るようにしている。把握した内容は申し送りノートなどに記録し、職員間で共有を図って、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様とのコミュニケーションを図り、その方らしい生活を出来るだけ把握し過ごしやすい環境作りを行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の状態の変化、様子を把握して業務中や申し送りの際に職員同士で話し合い、共有しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様・医師・看護すべての関係者一同がチームとなりカンファレンスを実施しております。	介護計画はモニタリングをもとにカンファレンスで話し合い、半年ごとに見直している。利用者・家族の要望は計画作成担当者が聞き取っており、介護計画に反映させている。利用者のADLなどに変化があればその都度見直し、現状に則した内容に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実際に話した内容を記録するように心がけております。また職員がどのような声掛けをしたのかを記入することで新たな気づきが出るようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状態やニーズに応じて、柔軟に対応できるよう心掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベント(夏祭り)の参加や、消防署立会いの避難訓練、行方不明時の警察との連携などがとれるようにしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様が希望している受診先を把握し、事故等があった際には優先的に希望先に搬送させて頂けるようにしております。	月2回の訪問診療及び週1回の訪問看護をにより利用者の健康管理をしている。定期的な受診は家族がおこなっているが、急変時はホームで対応している。24時間のオンコール体制もあり、利用者や職員の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の些細な変化に気づき、訪問診療及び訪問看護と連携を図り健康管理等を相談し支援してまいります。また早期の対応、適切な受診、看取りを受けられるように充実させております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には担当の看護師等と情報交換、相談をしたりと連携・情報共有・交流を図ってまいります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の尊厳を重視し、その入居者様やご家族様の意向、関係者一同がチームとなり、終末期に向け、一瞬一瞬の必要なケアや思いを反映した大切な時間を過ごしています。(今年度対応中)	重度化の指針を整備しており、入所時に説明し同意を得ている。終末期に入った場合は医師から家族に説明してもらい、家族の意向を確認している。看取りの体制もあり、職員研修も実施している。昨年度は2名の看取りをおこなった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の際には、職員は管理者と連絡を取り指示を受けたり、緊急マニュアルに沿って対応しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を行っております。そこで消火器訓練や訓練後の指導を受けて、いざという時に行動できるように取り組んでおります。	年3回自然災害や夜間を想定し防災訓練をおこなっており、そのうち1回は消防署の指導を受けている。また、職員は地域の防災訓練にも参加して、避難場所への経路なども確認している。地域との協力体制もあり、非常時は発電機なども借りることができる。	訓練は時間帯を工夫して夜勤専従者も参加できるようにしているが、今後さらに夜勤者対象の訓練を積み重ねることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の特徴を把握した上で尊厳やプライバシーをその人に合ったそれぞれのケアの在り方・方針を適切に実施することで確保しております。	利用者を尊重したケアに取り組んでおり、言葉づかいは接遇研修などでも確認している。また、利用者や家族のプライバシーにも配慮するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が日頃からご本人様の意見に耳を傾け、希望を実現できるように心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならぬよう注意しながら、一人一人の生活のリズムやペースを大切にしながらご入居者様の希望に沿った生活が出来るように心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床・就寝時の着替え等、ご本様の希望に沿いながら、季節に応じた選択が出来るように支援しております。また2~3ヶ月に1度理美容に来ていただき、カットや髪染め等のおしゃれも楽しんで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に調理や盛り付けなどを楽しんで行っております。誕生日にはご本人様からの希望メニューを取り入れ楽しみを提供しております。	食材は業者より取り寄せているが、調理は職員と利用者が一緒に準備や後片付けをおこなっている。時には外食に出かけて好きなものを食べたり、誕生会では寿司パーティなどで楽しんでいる。また、家族会の時には利用者と家族と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的にはバランスの取れた献立をもとに提供しております。食事・水分摂取量をチェックし、一人一人の状態を把握して支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っております。介助が必要な方には声掛けや介助を行い、清潔を保持しております。必要に応じて訪問歯科の利用を実施しております。義歯利用者には毎日義歯洗浄剤の使用を支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄パターンを把握し、一人一人の習慣に合わせて声掛けや誘導を行っております。また出来る限り自尊心を傷つけないように常に心がけながら支援しております。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、利用者に応じて、声かけしたり誘導している。声かけは利用者の自尊心を傷つけないように配慮している。入院して帰って来た後は歩行が困難だった人が、自力でトイレでの排泄ができるようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排泄リズムを把握しております。コントロールが必要な際は主治医に相談し、指示のもと支援しております。体操や牛乳等を召し上がって頂き自然排便を促しております。それでも出ない場合には処方されている緩下剤を使用致します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調面には十分に配慮し、ご自身のペースに合わせて、気持ち良く入浴をして頂けるよう実施しております。	入浴は週に2回～3回の支援をしている。ホームは個浴であり、立位が取れない利用者はシャワー浴としている。また、菖蒲湯やゆず湯などで季節感を出したり、浴室で唄を歌うなど入浴が楽しいものになるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決めておりません。一人一人の生活リズムに合わせて休んで頂いております。遅くまで起きられるときには、職員と一緒にリビングで過ごされております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医が薬を決め、薬剤師が中心に薬の管理を行っております。職員は常に薬の内容や増減、変更を申し送りしております。薬剤師による薬の勉強会も実施しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人にあった家事を手伝って頂き、生活の中で楽しみややりがいを感じて頂けるよう支援しております。散歩や体操等で身体に刺激を与え、ADLの低下を予防しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと一緒に外出したり、イベントなどにはご家族様と一緒に過ごせるよう企画しております。希望時にはお散歩など積極的に取り組み、地域交流に繋げています。	気候がよければ近くに散歩に行ったり、外食などにも出かけている。また、地域のお祭りなどの行事に参加することもある。家族と一緒に買い物や食事に出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金はお預かりをさせて頂いております。買い物ご希望時には職員と一緒に出掛け、入居者様に依りて支払っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等を記入出来るご入居者様には一筆書いて頂いております。電話のご希望時には支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様の個性を活かしたそれぞれのレクを取り入れ、生活感のある充実した時間を過ごしています。時にはユニット合同での集団レクを実施しております。	利用者は一日の大半をリビングで過ごし、テレビを見たり、歌ったり、トランプ、かるた、風船バレーなどでそれぞれが楽しんでいる。利用者が居心地よく過ごせるよう、座席の配置などにも配慮している。リビングの窓からは林が見え、季節の移り変わりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲良く過ごして頂けるように職員が間に入りコミュニケーションのお手伝いをしております。歌を歌ったりし、ご入居者様が笑顔で過ごせるように努力しております。ご入居者様は各居室行き来しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に相談し、思い入れのある物を出来る限り使用して頂いております。中には大切にされている仏具等や指導に使用していたお琴を持ち込まれているご入居者様もおります。新しく必要な場合は出来るだけご入居者様と一緒に買い物に行き、選んで頂けるようにしております。ご自宅と同様に過ごされております。	各居室とも馴染みの家具を持ち込んでおり、配置は家族と相談している。居室清掃は毎日おこない、清潔に、安心して過ごせるようにしている。利用者が居室を間違わないよう、表札を大きくするなど工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様一人一人あった家事を手伝って頂き、生活の楽しさややりがいを感じて頂けるよう支援しております。		